

「ぼ～れば～れ」通巻 413 号所載

さらに厚くなった医師のサポート

三郷の小さなつどい 2014 年 11 月 8 日（土）13：30～

東和東地区文化センター 参加者 23 名

クリニックふれあい早稲田の大場先生、みさと健和団地診療所の宮本先生に加えて、今回初めて、みさと協立病院の矢花先生が参加して下さり、介護家族の思いに寄り添って下さる先生が増え、とても心強くなりました。

はじめに大場先生から、アリセプトがアルツハイマー型だけでなく、レビー小体型にも効果があると認められた話がありました。Yさんは、ご主人と一緒に参加されて、毎日食べた食事の内容を書くように、ご主人に薦めているとのこと。ご主人は「なかなか大変です」とにこにこしていました。Oさんから、認知症になると無口になるのかなと質問がだされ、他の何人かから、初めはうつ状態だったと話されました。大場先生から「初めは意欲がなくなるので、アリセプトは意欲が出る薬です。それと同時に周りのケア、家族だけでなく、施設の利用もふくめて適切なケアが必要です」、デイサービスに行きたがらないという悩みについては、「施設などと連絡をとり、スタッフと仲よしになって、『お茶飲みに行こう』と誘ってもらう方法もあります」とアドバイスがありました。

